

2024年度 NO. 2 2024.7.31

目次

1. 第 25 回通常総会の概要報告

6月8日(土)、第25回通常総会が開かれ、議案はすべて承認可決されましたので概要を報告します。今年度も引き続き、魚アラルサイクル、プラスチックリサイクルに取り組み、2025年開催の関西万博から排出される事業系一廃の適正なりサイクルについても検討して参ります。

2. 植田油脂株式会社を訪問して(1)

「地球のきれいをお手伝い」をモットーに、廃食用油のリサイクルに長年取り組んでおられる大東市の植田油脂さんは当会の法人会員でもあります。廃食用油がバイオ燃料の原料として環境にやさしいとされていますが、今や航空燃料として使えると脚光を浴びています。連載でお届けします。

3. 全国スーパーマーケット環境調査 2023 報告会

～環境調査からみえてきたこと、今後の課題～

お店のプラスチック包装はどうなっている？

環境市民の堀孝弘さんは、2022年京都市でスーパーマーケット環境調査を行い、2023年は全国規模の調査をしました。アジェンダ 21 すいたも調査に参加しましたので、吹田市内で報告会を開き、堀さんから調査の結果をお聞きし、今後について参加者と考えました。

4. 関本さんのコラム 「ヤマノススメ」六甲山編①

今回から「六甲山編」の連載が始まります。神戸市にある六甲山は大阪に住む人たちにとって親しみやすく、子どもころから何度も訪れた方も多くおられるのではないのでしょうか。山頂からは100万ドルの夜景を見ることができます。

5. 加藤さんのコラム 字が違う 君は就活 ボク終活

終活の仕方にはいろいろあります。理想的な臨終というと「ピンピンコロリ」と誰もが思います。しかし、そうもいかないのが人生かもしれません。

第 25 回通常総会の概要報告

第 25 回通常総会は令和 6 年 6 月 8 日（土）、大阪市福島区のすも一き一事務所で開催され、下記事項が承認可決されましたので、その概要を報告します。

記

1. 令和 5 年度事業報告

実施された主な事業は次の通り

- ① 情報提供事業は、年 6 回の会報発行（令和 5 年度 NO.1～NO.6）とホームページ運営を行った。
- ② 他団体との協働事業として大阪市が参加した「大阪ごみ減量推進会議」は地球環境基金助成事業 3 年目の市民講座を開催したことに伴い本会も協力した。
- ③ 市民派議員との「ごみ問題学習会」事業（2007 年 7 月～）は ZOOM を活用して今年度は 3 回開催され、西宮市、乙訓環境衛生組合（長岡市・向日市・大山崎町で構成）、尾張東部衛星組合（瀬戸市・尾張旭市・長久手市で構成）の施設更新計画の問題点について深掘りする議論を続けることになった。
- ④ 東大阪のごみを考える市民の会は当会と協働して、東大阪都市施設組合が発電効率 26%と日本で、年間売電収入額 7 億円（東大阪分）を活用して太陽光発電装置購入の補助金に充当することを目指す活動を続けているが、当局の回避作戦のため、働きかけの工夫が重要課題になっている。
- ⑤ 大阪府の魚アラは岸和田市にある小島養殖で魚粉になっているが、経営主体が小島養殖から埼玉の三畿飼料に代わり 2 年目に入った。境港市にある錦海化成が大阪府下のスーパーや卸売り市場の魚アラを有価物として買い取る試みを強化させているため、法的問題点を調べることで対応している。

2. 令和 5 年度収支報告（単位：円）

【収入の部】			【支出の部】		
前期繰越		767,170			
当期収入	会費	115,000	当期支出	事業費	124,876
	寄付	0		管理費	167,243
	事業収入	0		計	292,119
	計			次期繰越	590,051
合計		882,170	合計		882,170

3. 令和 6 年度事業計画

主な事業計画は次の通り

① 情報提供事業

年 6 回の会報発行については、必ずしもごみ問題とは直接関連しない会員の社会活動も紹介する方針を強化し、会員に原稿を依頼する。また、ホームページ及びフェイスブックによる情報

発信を行う。

- ② 市民派議員を中心にした「ごみ問題学習会」を今年度は随時開催し、参加各市議の行政が抱える諸課題の改善に取り組む。
- ③ 大阪市環境局との協同事業の一つである「大阪ごみ減量推進会議」は25年開催予定の万博から排出される事業系一廃の適正な処理のあり方を考える学習会を中心に事業を行う。
- ④ プラスチック資源循環法の目玉である製品プラをリサイクルしている市町村を調べると大半がRPFになり燃料として利用されていることが明らかである。焼却発電している行政にとってはお金と手間をかけて自市の炉でなく他所の炉で燃やすことになるだけである。このことを府下の市町村に知らせ、単一素材でできたペットボトルやトレイなど以外は、発電焼却に回し、熱回収を高める方が経済的であるしかつCO2削減効果もあることを明らかにできる調査活動を本年度も引き続き実施する。
- ⑤ 魚アラルリサイクル問題については、錦海化成がスーパー及び中央卸売り市場の魚アラを有価物として買い取る上での法的問題を本年度も引き続き調べ、問題点が見つければ是正活動をする。

4. 令和6年度収支予算 (単位：円)

【収入の部】		【支出の部】	
前期繰越	590,051	当期支出	
当期収入		事業費	130,000
会費	145,000	管理費	168,800
寄付	0	予備費	10,000
計	145,000	計	308,800
		次期繰越	4,262,541
合計	735,051	合計	735,051

5. 役員選任

役員の任期満了に伴い役員の選任を行った。結果は次の通り理事5名、監事2名が選任された。
理事 森住明弘 平川司 水川晶子 杉本照夫 吉田義晴 監事 川上幸男 千代延明憲

「なお、通常総会終了直後に開催された令和6年度第2回理事会において、互選により理事長森住明弘、副理事長平川司、同水川晶子が選任された。」

以上

<文責：水川>

=====
令和6年6月8日(土)、
第25回通常総会の様子です。

正会員の川上さんは、犬鳴豚でおなじみ、泉佐野市の(有)関紀産業で養豚業を営んでおられますが、この日はベトナムの技能実習生で生産部長のフォン・クオック・ダットさんにもご参加いただきました。



左側がフォン・クオック・ダットさん

～環境調査からみえてきたこと、今後の展開～
お店のプラスチック包装はどうなっている？



6月22日くるくるプラザ（吹田市）にてNPO 法人環境市民の堀孝弘さんによる報告会が開かれました。

今回の「全国スーパーマーケット環境調査 2023」は全国の環境団体によびかけ、46 団体がスーパーマーケット 137 店舗に対して調査を行いました。大阪府内ではアジェンダ 21 すいた、千里リサイクルプラザ市民研究所、大阪ごみ減量推進会議など 4 団体が参加、13 店舗を対象としました。

フランスで 2022 年 1 月から野菜・果物販売時のプラ包装が禁止に！

フランス循環経済法により、31 種の青果物に対してプラ包装を認めないという法律がスタートしました。包装つきで販売されている割合は 37%と推計され、この措置により毎年 10 億個以上のプラ包装が削減できる計算になるそうです。

堀さんは、残りの 63%がはだか売りされているということに着目し、それなら日本ではどのくらいがはだか売りされているのか知ろうということで行動を起こしました。

2022 年 11 月、京都市内で「お店のプラスチック調査」を市内スーパー 62 店で市民ら 46 人（学生 14 人）が調査を実施、はだか売り比率は商品点数比 17.6%、商品棚面積比 25.7%というデータを得ました。

全国ではどうか？

全国規模で見ると違いはどうか、地方による差はあるのか、を知ろうと、2023 年 10 月から 11 月にかけて全国調査を実施しました。

今回の調査の目的は、「お店のプラ調査」による『プラ包装の実態把握』『プラ削減、省エネなどの好事例さがし』『未来の売り方、買い方を考える基礎データ集め』です。プラ包装、食品ロス、エネルギー、いずれの削減にもつながる、未来の売り方、買い方を考えるきっかけづくりにしようというものです。

店頭資源回収 BOX の様子

店頭の資源回収箱の設置では、調査した 137 店の 73%にあたる 99 店が「ペットボトル回収箱」を設置。発泡トレイ 120 店、牛乳パック 119 店に次いで多い項目でした。また、ペットボトル回収箱設置店のうち 1/4 程度で有償回収（ポイント還元や社会貢献など）が行われていました。

2022 年の京都の調査での有償回収は調査全体の 1 割程度でしたが、最近はコンビニ大手も有償回収を始めたところがあります。今後も行政が税金を使って回収を続けていくべきかを考える材料になります。

サッカー台（購入した商品を詰める台）や青果物売り場のプラ袋

お店の棚ではだか売りをしていても売り場にプラ袋が置いてあって、適正利用を呼び掛ける表示がある売り場は 0 店でした。また、買った商品を袋に詰めるサッカー台のプラ袋の適正利用を呼び掛ける表示があるところは 129 店中 7 店のみでした。レジ袋については、全国一斉有料化の実施前後、削減が進みましたが、サッカー台のプラ袋等、他の使い捨てプラ削減の取り組みは弱いといえます。

はだか売り率はどうか

青果物 10 種（大根、にんじん、じゃがいも、トマト、たまねぎ、きゅうり、なす、キャベツ、ほうれん草、バナナ）についてはだか売り率を調べたところ、棚面積比 20.1%、商品点数比 17.0%という数値を得ました。近畿以西に比べて中部以東がはだか売り率が高い傾向（西高東低）がみられました。

野菜	だいこん	にんじん	じゃがいも	トマト	たまねぎ	きゅうり	なす	キャベツ	ほうれん草	バナナ
棚面積比 (%)	38.6	6.1	17.4	23.0	23.5	29.8	5.4	45.4	0.7	2.3
商品点数比 (%)	28.4	6.6	16.2	21.4	22.9	32.3	8.1	27.0	0.9	2.6

全国のスーパー 136 店での結果

野菜	だいこん	にんじん	じゃがいも	トマト	たまねぎ	きゅうり	なす	キャベツ	ほうれん草	バナナ
棚面積比 (%)	19.6	4.6	26.5	37.3	32.7	38.1	4.6	8.1	0.0	0.0
商品点数比 (%)	21.1	8.0	25.0	27.3	25.0	43.5	7.7	9.7	0.0	0.0

大阪府内のスーパー 13 店での結果

好事例の取り組み

吹田市内のダイエー江坂店：リターナブルびん入りのビールを販売。フレスコ江坂店：ペットボトル回収機（1本につき 0.3 円分を寄付先 3 つから選べる）。

東京都日野市の「容器包装お返し作戦」：ペットボトルなどの容器包装を買ったお店に返す。

福知山市の「プラント」の「食品廃棄撲滅キャンペーン」：コーナーの商品を 5 点買うと粗品（食品廃棄撲滅品）がもらえるシステム。滋賀県のラムー：30 種のお菓子量り売りコーナー、京都市の平和堂木津川店：コーヒーと洗剤の量り売り。京都市の西友山科店：冷蔵庫に扉がある

参加者の意見

「有機野菜の方がプラ包装が多い。産地で包装するためか。」「スーパーと市民では望んでいることが違う」「袋詰めするための袋代や人件費がかかっている」「消費者の声＝『包装はいらない』を届けよう」「流通の上・下流の調査が必要ではないか」「液体洗剤などの詰替えが袋からボトルになっている」

消費者への行動提案

- 空きペットボトルを買ったお店に返そう。税金は福祉、教育、子育て支援などに充ててもらおう。
- どの野菜・果物ならプラ包装を減らせるか考える材料にしよう。消費者の理解を得ることも必要。
- サッカー台のプラ袋はせめて、「必要な量だけお取りください」の掲示だけでも求めよう。

調査の展開

より多くの人（団体）の参加を促し、「現状把握」以外の目的の達成を目指します。手順は簡素化（ふだんの買い物のついでに調べてもらう）します。また、調査内容の簡素化と調査集計の省力化（グーグルフォームで入力）を図り、対象をコンビニやドラッグ店に拡大していきます。

（水川晶子 記）

植田油脂株式会社を訪問して（1）

① 植田油脂株式会社創業の歴史

6月中旬。当会の法人会員として長年にわたって当会の活動をご支援いただいている廃食用油脂リサイクル大手の植田油脂株式会社（以下植田油脂）を訪問しました。

植田油脂は昭和26年創業ですが、大阪府大東市で創業されたことは、江戸時代（1740年）の大和川の付け替えと大きく関連しています。大和川の付け替えによって旧川筋に新田開発が始まりましたが、砂地のため米づくりには適さない土壌でした。そこで主に綿の木が植えられるようになりました。これらの綿で作られた木綿は「河内木綿」と呼ばれ品質も良く生産量が増加し名産品となりました。現在の長瀬川沿いの製油工場などはその名残を伝えています。

一方で現在の植田油脂の最寄り駅であるJR学研都市線「野崎駅」周辺では、一面の菜の花が栽培されていました。野崎観音は、古典芸能近松門左衛門が描いた、お染久松の心中物語でも「野崎参り」として描かれています。また、上方落語『野崎まいり』は京都祇園の『おけらまいり』と讃岐の『こんぴらまいり』とともに関西三まいりとして紹介されます。江戸時代には、新しく干拓された陸地の中の水路を大小の船でお参りすることで大変にぎわっていたと思われま。屋形舟で往来した様子は、昭和10年に歌手東海林太郎が歌って全国的に大ヒットした「野崎まいり」の歌詞にもなっています。

・野崎参りは 屋形舟でまいり どこを向いても 菜の花ざかり 粋な日がさにゃ 蝶々もとまる
呼んで見ようか 土手の人 （作詞：今中 楓溪。近隣学校の校歌の作詞もされています）

大和川の付け替えという江戸時代の一大事業が、植田油脂創業の原点に繋がっていることが分かりました。現会長の植田良次さんは「菜種油の製造・販売」を業とし個人事業として創業されましたが、令和3年に創業70年を迎えられ、循環型社会に貢献する企業として廃食用油脂の100%完全リサイクルを実践されています。

② 植田油脂が実践しているリサイクル・ループ

排出事業者（大手スーパーマーケット、ファーストフード店など）→収集運搬→中間処理・全量「油脂」に再生→「油脂」を販売→飼料用油脂・工業用油脂→鶏や豚のエサ、石鹼・塗料・タイヤなどの原料→リサイクル製品

・植田油脂は現在、約2500トン/月の廃食用油の回収を行っています。廃食用油は有価物として買い取っていましたが、平成になったころから廃棄物扱いと変わっていきました。そのため、平成4年に大阪府産業廃棄物収集運搬業許可を取得し、平成11年には大阪府産業廃棄物処分業許可を取得されました。

③ 廃食用油が再び有価物として取引が始まる

令和に入ると、国内産飼料の価格高騰や為替相場の影響も受けて大量に排出される廃食用油は有価物として取引されるようになり、植田油脂も有価物買い取りをせざるを得ない状況となりました。そして、現在はSAFへの対応が原料の確保に向けて大きな課題となっています。

・SAF「Sustainable Aviation Fuel」（持続可能な航空燃料）の導入促進に向けた施策の方向性について（令和5年5月経済産業省 資源エネルギー庁） 2030年時点のSAF使用量として、「本邦エアラインによる燃料使用量の10%をSAFに置き換える」との目標を設定しました。

SAFの原料として、廃食用油の買い取り価格：飼料用油脂・工業用油脂の買い取り価格の2倍以上で買い取る会社が現れました。

次号に続く

（杉本照夫 記）



訪問時の写真（回収車両と貯蔵タンク）

「ヤマノススメ」六甲山編 ①

関本秀一

屏風のように連なる、神戸の背山、六甲山。今年のゴールデン・ウィークに、テントを担いでこの緑豊かな六甲山の全山縦走にチャレンジしました(22 峰のピークを踏破)。



旗振山から明石海峡大橋と淡路島を眺める

山の端が海に面した神戸市垂水区の JR 塩屋駅から出発。まずは須磨浦公園の旗振山(253m)へ。そこから尾根伝いに鉄拐山(てっかいさん)を経て、山を丸々削って造成された高倉台の団地群を抜け、風化した花崗岩が剥き出しの野趣あふれる名勝地・須磨アルプスの「馬ノ背」を恐る恐る歩き、高取山から源平合戦で有名な鴨越を超えて息を切らしながら菊水山(459m)へ。

ここですっかりバテましたが、頂上から眺めるミナト神戸の風景はちょっとしたご褒美になりました。



野趣あふれる須磨アルプス「馬ノ背」



菊水山頂上から神戸港を眺める

菊水山で十分に休憩を取って鍋蓋山(486m)、再度山(470m)へと縦走し、初日は布引貯水池の北側にある市ヶ原の野営場でテント泊。翌日は、摩耶山(699m)、六甲最高峰(931.3m)へと縦走し、西宮市の最高峰・後鉢伏山(898m)のピークも踏んで、阪急宝塚駅まで歩きました。

2日間の歩行距離は約 48 キロ。累積標高約 3,780m。約 23 時間の行程でした(野営時間は含まず)。

ですが、このコース、アップダウンの連続で、しかも階段がやたらと多く、テント装備の 16 キロの荷物を背負っての歩行は結構、いや凄くきつかったです。1日目でヘロヘロになりました。



六甲山地 出典: 国土地理院ウェブサイト (一部加工)

ところで、六甲山には登山・ハイキング道がとて多くあり、公共交通機関を使ったアクセスが容易で、関西では金剛山に並ぶ人気の高い山です。

六甲山牧場や高山植物園、スキー場などレクリエーション施設も多く、観光客が気軽に楽しめる山でもあります。最近では六甲全山縦走をするトレイル・ランニングが盛んでトレラン大会も毎年開催され、7時間ほどで完走してしまう猛者もいるとか。

今は都市山としてとても親しまれている六甲山ですが、信じ難いことにほんの 100 年程前まで酷い禿げ山でした。

次回以降、六甲山が禿げ山になった理由や緑復活の歴史にふれながら、六甲山を歩いて感じたことをざっくばらんに語っていききたいと思います。

私は現在、77歳。人生の終末期。妻はものすごく終活に熱心な方で、片端から片づけていく。そして私の尻も叩く。私の姉なども部屋にモノが何もないほど、片づける人である。

しかし、今の私は辞典づくりをしたり、研究会という名の老人クラブの世話もあり、資料も増えていっている。終活の入る余地がない。

しかし、終活をしていかねばならない。去年は図書館に行って、本を写真で見せ、そのなかで必要なものがあれば、と言って寄贈をしてきた。図書館では不要な本は棄却してしまわれる。私は形見というほどの値打ちの物はもっていないが、ちょっとした物を、生きている間に渡し、喜んでもらおうと考えている。私自身も人から没後に形見にいただいた。これを今年から始めた。

また、私は写真を撮る人で、直接渡せない人に、年賀で送っているが、それでも、なかなか渡せなかった人達に、今年から何とか発送しておくことにした。死後、机の引き出しを開けたら、写真が一杯あって、はて、これをどうしたらいいものかでは、家族が困るだろう。知らない顔ばかりでは、ごみ箱に直行される、というわけで、ここ数年で片づけなければならない。

終活と言えば、私の知人の知人は、人生をはかなんで、葬儀代だけを貯金通帳に残して自ら命を絶った人もいる。壮絶な終活である。私の方は、未練たらしく、生きることに専念している。ある朝、なかなか起きてこないの、起こそうとしたら死んでいた、という理想的な死に方をしたいので、階段上りをしている。これも終活と思う。

藤原相之助という東北の希代の文筆家は、臨終の場で、ふとんから立ち上がって、「皆さん、ありがとうございました」と言って布団にもどり、シーツを被って、その直後に息絶えたという。こんな立派な終活もある。

この間、私の恩人で脳梗塞で倒れ、発語できない先輩のところへ、ようやく見舞いに行けた。今生の別れをするのも、終活の一つかもしれない。私の九州に住む親友がガンを宣告されていた時、夏休みに行こうとしたら制止された。大阪でお子さんの結婚式の予定があるという。その時まで待ったことがある。お亡くなりになってから行っても遅い時もある。今年、お菓子も買っていくお見舞いの準備をしていたが、その直前に亡くなられた方がいた。残念だった。

亡くなる前に、伴侶に言葉を残そうとするのも終活かもしれない。我が妻に「今度、生まれ変わっても、また一緒になろうな」と言って死のうと思っていると私に言った人生の先輩がいた。しかし、当の「妻」の方は、かつての暴力夫の言葉を死後、一笑したという。悲喜こももだ。

私の尊敬する人の葬式に行った。するとビデオが映され、「私の葬式にご参列いただきありがとうございました」という本人の挨拶にはびっくりした。生前に準備されていたという。これも終活の一つだろう。人生色々、終活色々ですね。